

氏名	小 林 洋 三
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1542 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	サルコイドーシスの成因に関する研究 第 1 編 サルコイドーシス患者における気管支肺胞洗浄液の検討 第 2 編 <i>Corynebacterium parvum</i> と Muramyl dipeptide による実験的肺肉芽腫症作製の試み
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介      教授 長島秀夫      教授 小川勝士

### 学位論文内容の要旨

サルコイドーシス（サ症）の成因究明のため以下の研究を行った。第 1 編では気管支肺胞洗浄法を用い、サ症肺局所における細胞成分および angiotensin converting enzyme (ACE) 活性につき検討した。サ症の肺胞内ではリンパ球、特に T リンパ球の著増が認められ、この T リンパ球がサ症肺病巣でエフェクター細胞として主役を演じていると考えられた。又、肺胞マクロファージも ACE を分泌していると思われ、活性化リンパ球により肺胞マクロファージも活性化され肉芽腫形成に関与していることが窺われた。第 2 編ではサ症の病因として *Propionibacterium acnes* による感染論が呈示されたため、同族の *Corynebacterium parvum* (*C. parvum*) による感作モルモットに muramyl dipeptide を投与することにより実験的肺肉芽腫症を作製し、肉芽腫病変の成因につき検討した。感作モルモットでは、肺および肺門リンパ節を含む所属リンパ節に肉芽腫形成が認められ、肉芽腫形成と同時期に肺胞内リンパ球増加がみられた。これら肉芽腫は *C. parvum* による前感作で肉芽腫は増大し、かつ長期に渡り存在したことより、肉芽腫形成には、感作により活性化されたリンパ球およびマクロファージの存在が必要と思われた。

## 論文審査の結果の要旨

サルコイドーシスの成因究明のため気管支肺胞洗浄法を用いて肺局所の細胞成分や ACE 活性を測定し、さらに *Corynebacterium parvum* による実験的肺肉芽腫症を作製した結果肉芽腫形成には感作による活性化されたリンパ球およびマクロファージの存在が必要であることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。